令和7年2月13日

令和7年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第2期）
入学者選抜試験 陶芸

注意事項

- ・ 試験が終わるまで、携帯電話等の通信機器は電源を切って配布された封筒に入れておくこと。
- ・ 写真撮影等、一切の記録を禁止する。
- ・ 受験票は、受験番号札の横に置くこと。
- ・ トイレに行く際は、必ず受験票を携帯すること。
- ・ 与えられた問題用紙、草案用紙等は持ち帰らないこと。

令和7年2月13日

令和7年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第2期）
入学者選抜試験 陶芸

本日の試験は、以下の時間割で行います。

■ 筆答試験 / 試験場（陶芸研究室）

10:00 ~ 11:15

◇ 昼食 / 試験場（陶芸研究室）

11:20 ~ 12:25

■ 実技試験 / 試験場（陶芸研究室）

実技問題1

12:30 ~ 14:00

実技問題2

14:20 ~ 15:20

令和7年2月13日

令和7年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第2期）
入学者選抜試験 陶芸

筆 答 試 験

問題 1

以下の文章が説明している語句を解答用紙に答えなさい。

[1] 中国、朝鮮半島、日本、ベトナム、タイなどで焼かれた陶磁器で、中国・宋時代に官窯や竜泉窯で焼成されたものが名高い。胎土や釉薬中に含まれた鉄分が還元焼成によって発色し、その釉色は玉器や雨過天晴に例えられる。

[2] 硫化水銀から得られる朱の顔料に焼き上がりの色が似ていることから呼称で、鮮やかな紅色に発色する高火度釉をいう。銅を呈色剤として還元焼成することで得られる紅釉と釉裏紅を指す日本での名称。

[3] マグマが冷えて固まって生成された岩石が地熱や水、炭酸ガスなどで風化が進み、その場を移動せずにできた粘土の総称で、母岩に近い組成を持つため不純物が少なく白色のものが多い。粘りが少なく、可塑性に乏しいのが特徴である。各種のカオリンがこれに当たる。

[4] 岩石が風化や熱水作用により粘土化し、母岩がもともとあった場所から移動して堆積した粘土の総称。移動や堆積の過程で有機物や酸化金属などの不純物が混入し有色の物が多く、可塑性が高いのが特徴である。木節粘土や蛙目粘土がこれに当たる。

[5] 1904年に詩人である日本人の父と作家であるアメリカ人の母との間に生まれる。米国の美術学校で彫刻を学び、フランスへ留学し、パリ在住の彫刻家コンスタンティン・ブランクーシのアトリエを訪問し助手を勤める。モニュメント彫刻をはじめ公園、庭などの環境設計や家具、照明のデザインなど幅広い創作活動を行なった。京都の陶芸家、宇野仁松の工房や鎌倉にある北大路魯山人の工房で作陶する。東洋と西洋を融合した造形は同世代やその後の陶磁造形作家に影響を与えた。

[6] 1853年に笠間藩で陶技を学んだ大塚啓三郎が開窯したのが始まりとされ、壺、水甕、すり鉢、土瓶などの日用品が焼かれた。砂気を含む陶土のため、やや厚めに成形された器形に、ぽってりとした釉薬が掛かった作風が特徴で、灰釉、糠白釉、柿釉、飴釉、黒釉、青釉などの地産の原料から発した釉薬が使われる。1924年に英国から帰国した濱田庄司がこの地で創作活動を開始する。柳宗悦、河井寛次郎等と共に民藝運動の提唱者である濱田の思想が今も受け継がれている陶産地。

[7] その全てが国宝に指定されている茶碗で、南宋時代に中国・建窯で焼成された建盞の一つと考えられている。厚めにかけて黒釉の内側に銀色の斑紋が表出し、その周囲に青色の虹彩が現れ、光の受け方によって様々な色に輝く。世界に三碗しかなく静嘉堂文庫、藤田美術館、大徳寺龍光院が所蔵している。

[8] 素焼きや生乾きの素地に堆線を施す装飾技法で、胎土や化粧土などに微量の水ガラス（ケイ酸ナトリウム）を混ぜた泥漿を油紙や和紙で作った袋やスポイトに詰め、堆線の太さに合わせた口金を付けて、絞り出しながら文様などを施す技法で、筒描きともいう。

問題 2

以下に挙げた語句をそれぞれ説明しなさい。

[1] 染付

[2] アーツ アンド クラフツ運動

[3] 埴輪

[4] ゴットフリード・ワグネル

問題 3

以下に挙げられた図版の作品について、それぞれ説明しなさい。

[1]

茨城県陶芸美術館. 没後 10 年 人間国宝 松井康成
展覧会図録.

茨城県陶芸美術館, 2013, p.53

[2]

東京国立近代美術館. 工芸館名品集-陶芸.

東京国立近代美術館,

2007, p54

[3]

京都国立博物館、表千家、裏千家、武者小路千家、
毎日新聞社.

特別展覧会 四百年忌 千利休展 展覧会図録.

表千家、裏千家、武者小路千家、

毎日新聞社, 1990, p.145

問題 4

「工芸とアート」について自身の考えを述べよ。(文字数は400字以内とする)

令和7年2月13日

令和7年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第2期）

入学者選抜試験 陶芸

実技試験

実技問題 1

与えられた粘土（8kg）を使って、条件に従い「生命」を感じさせる立体を制作しなさい。

条件

- (1) 焼成することを前提に造形すること。
- (2) 立体は450mm角の板上に制作すること。
- (3) 立体は板からはみ出しても良いが板上で自立すること。
- (4) 粘土は全部使わなくても良い。
- (5) 与えられたA4の草案用紙は持ち帰らないこと。
- (6) 受験票は受験番号札の横に置くこと。
- (7) 用意された道具のみを使うこと。
- (8) 用意された道具は持ち帰らないこと。

令和7年2月13日

令和7年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第2期）

入学者選抜試験 陶芸

実技試験

実技問題 2

与えられた粘土（8kg）を使って、条件に従い美しい大壺1つを八角亀板の上にロクロ引きしなさい。

条件

- (1) 別に用意された粘土（1kg）は八角亀板を止めるために使うこと。
- (2) 高台を削ることを前提に制作し、壺は亀板から切り離すこと。
- (3) 引き終えたものは亀板ごとロクロからはずし、ロクロの横に置きなさい。
- (4) 受験票は受験番号札の横に置くこと。
- (5) 用意された道具のみを使うこと。
- (6) 用意された道具は持ち帰らないこと。